

先進の三次元ファイバーレーザー加工機を活用して 自動車業界の複雑形状の試作部品ニーズに応える

自動車の試作部品の製造を行う企業である。超ハイテン材等の難加工材の試作部品でも、取引先から提示されるデータをもとに、金型・治具の設計からプレス加工・組付け・検査までを一貫対応できることが強みである。試作部品製造にとどまらず、その後の量産化における時間短縮・工数削減まで踏み込んだ金型設計および加工方法の提案も行っている。大手自動車部品メーカーから、車のフレームやフロア、サイメン、ルーフサイド、ダッシュボードなどの骨格部品の試作を中心に受注して、業績を伸ばしている。

所在地	愛知県刈谷市東境町南丸山58番地	設立	1980年
電話/FAX	0566-36-6211/0566-36-1047	資本金	1,000万円
URL	http://www.sanoack.jp/	従業員数	45人
代表者	代表取締役社長 佐野 和哉		



三次元ファイバーレーザー加工機の活用による複雑形状部品への対応

世界的に自動車のEV化が進む今、自動車部品は、超ハイテン材、アルミ材などの難加工材の一体成形による複雑形状化への対応が強く求められている。同社は、国内にまだ数台しかない三次元ファイバーレーザー加工機をいち早く導入して、プレス金型では対応不可能な複雑形状や、直線的な主軸の移動では対応できない切断面への対応を実現している。短納期・小ロット・複雑形状部品に対応可能な自社の優位性を、EV車や介護ロボット需要の高まりにより増えつつある数百台規模の少量生産の引合いにも活かしている。



三次元ファイバーレーザー加工機

加工データの数値化によるノウハウ蓄積と加工プロセスの改善

ハイテン材加工、アルミ材加工において同社は35年前から加工実績を持ち、愛知県内でもトップレベルの加工数値データを保有している。このデータを分析・活用して、適切な型設計、工程計画および検証に加え、正確な形状測定を行い、高精度な成形や最適な生産効率調整を実現している。三次元レーザー加工機についても加工速度、レーザー主軸角度の設定などのデータを収集し、完成車メーカーの高難度な要求精度を満たすための製造ノウハウとして蓄積し、加工プロセスの改善に活かしている。



加工データを蓄積して活用

現場の裁量に任せた働きやすい職場環境の提供

自動車の試作部品の設計・製造業務は、時期による繁閑の差が大きい。同社は、裁量労働制を採用してこれに対応している。勤務時間の管理は大幅に現場に任せており、従業員各自は子育てなどの都合に合わせて自由に労働時間を組むことができる。本取組は、社員の定着率向上にも役立っている。技能習得については、従業員同士が自主的に伝承し合う組織風土に加え、会社としても基礎教育プログラムや特定個人向けの指導プログラムを整備・導入することにより、高い技術力の維持を図っている。



働きやすい職場環境